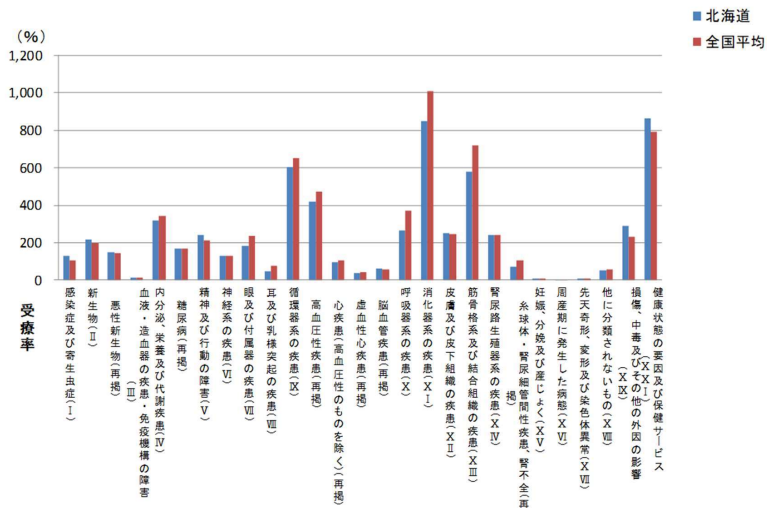


図6 人口10万人当たりの傷病分類別外来受療率 (R2)



厚生労働省「患者調査」の数値を基に道が算出。

ウ 歯科

北海道の一人当たりの診療費は **25,995** 円で、全国の **25,159** 円の 1.03 倍で **836** 円高くなっています。一日当たりの診療費は **8,206** 円で、全国の **7,597** 円より **609** 円高く、一件当たりの通院日数は **1.96** 日で、全国の **1.79** 日を **0.17** 日上回っています。

表8 歯科医療費の状況 (R2)

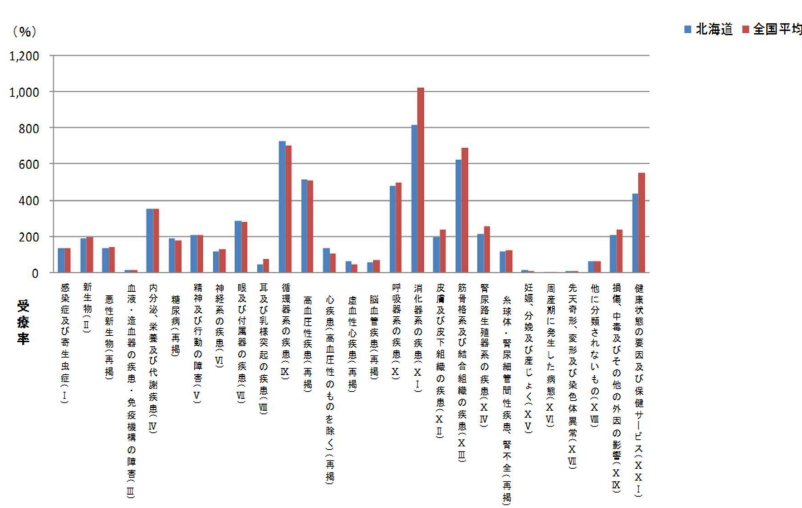
	北海道	全国	対比・差
一人当たりの診療費	25,995円	25,159円	836円
一日当たりの診療費	8,206円	7,597円	609円
一件当たりの通院日数	1.96日	1.79日	0.17日

厚生労働省「医療費の地域差分析」の数値を基に道が算出。

(2) 二次医療圏* 別一人当たり医療費の状況

北海道の医療費が高い要因の一つとして、入院の受診率や推計新規入院発生率*が全国に比べて高いことがあげられます(表5及び表9参照)。

図6 人口10万人当たりの傷病分類別外来受療率 (H29)



厚生労働省「患者調査」の数値を基に道が算出。

ウ 歯科

北海道の一人当たりの診療費は **24,921** 円で、全国の **24,183** 円の 1.03 倍で **738** 円高くなっています。一日当たりの診療費は **7,609** 円で、全国の **7,035** 円より **574** 円高く、一件当たりの通院日数は **2.00** 日で、全国の **1.82** 日を **0.18** 日上回っています。

表8 歯科医療費の状況 (H30)

	北海道	全国	対比・差
一人当たりの診療費	24,921円	24,183円	738円
一日当たりの診療費	7,609円	7,035円	574円
一件当たりの通院日数	2.00日	1.82日	0.18日

厚生労働省「医療費の地域差分析」の数値を基に道が算出。

(2) 二次医療圏* 別一人当たり医療費の状況

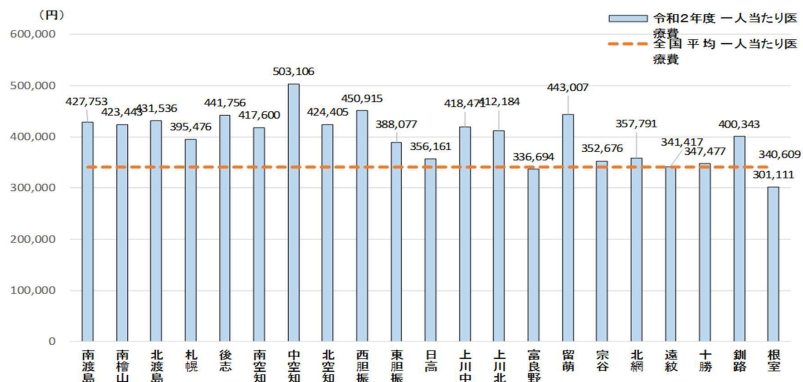
北海道の医療費が高い要因の一つとして、入院の受診率や推計新規入院発生率*が全国に比べて高いことがあげられます(表5及び表9参照)。

○時点修正

○時点修正

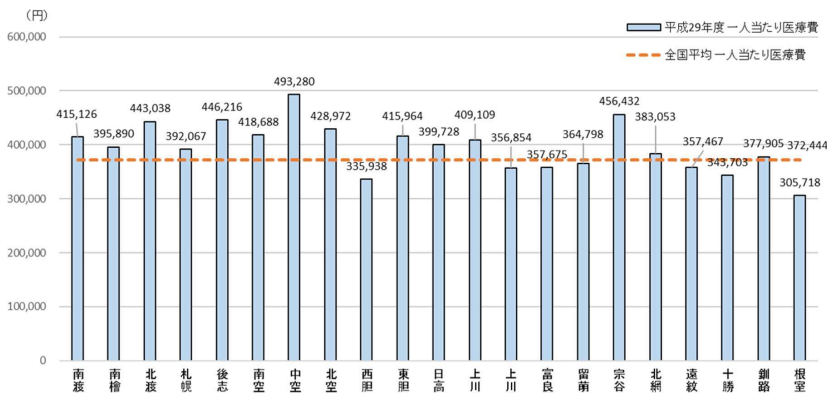
次期計画案（新）	現行計画（旧）	主な変更理由
<p>まず、二次医療圏域ごとの医療費の状況を見ると、入院、入院外（調剤を含む）及び歯科の合計では、全国平均が <u>340,609</u> 円であるのに対し、<u>富良野、根室以外の 19</u> 圏域で全国平均を上回っています（図7参照）。</p> <p>また、入院医療費の状況を見ると、<u>十勝、根室</u> 圏域で全国平均を下回っていますが、特に、<u>北渡島檜山、後志、中空知、西胆振及び留萌の 5</u> 圏域では、全国平均の <u>1.5</u> 倍以上となっているなど、二次医療圏域で差が生じている現状にあります（図8参照）。</p> <p>入院外医療費については、<u>南渡島、後志、南空知、中空知、北空知、西胆振、東胆振、上川中部、上川北部、留萌及び釧路</u> で全国平均を大きく上回っていますが、<u>北渡島檜山、日高、富良野、宗谷、遠紋及び根室の 6</u> 圏域で全国平均を下回っています（図9参照）。</p> <p>歯科医療費については、<u>札幌、後志、中空知、北空知、十勝及び釧路の 6</u> 圏域で全国平均を大きく上回っていますが、<u>南檜山、北渡島檜山、日高、富良野、留萌、宗谷、北網、遠紋及び根室の 9</u> 圏域で全国平均を下回っています（図10参照）。</p> <p>年齢階級別の推計新規入院発生率の状況を見ると、北海道の場合、0歳から4歳までの乳幼児や60歳以上の被保険者の発生率が特に高くなっているほか、いずれの年齢階級別で見ても全国を上回っています（表9参照）。</p>	<p>まず、二次医療圏域ごとの医療費の状況を見ると、入院、入院外（調剤を含む）及び歯科の合計では、全国平均が <u>372,444</u> 円であるのに対し、<u>西胆振、上川北部、富良野、留萌、遠紋、十勝及び根室以外の 14</u> 圏域で全国平均を上回っています（図7参照）。</p> <p>また、入院医療費の状況を見ると、<u>西胆振、留萌、十勝及び根室</u> 圏域で全国平均を下回っていますが、特に、<u>北渡島檜山、後志、中空知及び宗谷の 4</u> 圏域では、全国平均の <u>1.3</u> 倍以上となっているなど、二次医療圏域で差が生じている現状にあります（図8参照）。</p> <p>入院外医療費については、<u>中空知と東胆振</u> で全国平均を大きく上回っていますが、<u>南檜山、北渡島檜山、札幌、西胆振、上川北部、富良野、留萌、遠紋、十勝及び根室の 10</u> 圏域で全国平均を下回っています（図9参照）。</p> <p>歯科医療費については、<u>札幌、後志、中空知及び北空知の 4</u> 圏域で全国平均を大きく上回っていますが、<u>南渡島、南檜山、北渡島檜山、西胆振、上川中部、上川北部、富良野、留萌、遠紋及び根室の 10</u> 圏域で全国平均を下回っています（図10参照）。</p> <p>年齢階級別の推計新規入院発生率の状況を見ると、北海道の場合、0歳から4歳までの乳幼児や60歳以上の被保険者の発生率が特に高くなっているほか、いずれの年齢階級別で見ても全国を上回っています（表9参照）。</p>	

図7 二次医療圏域別一人当たり医療費 (R2 合計)



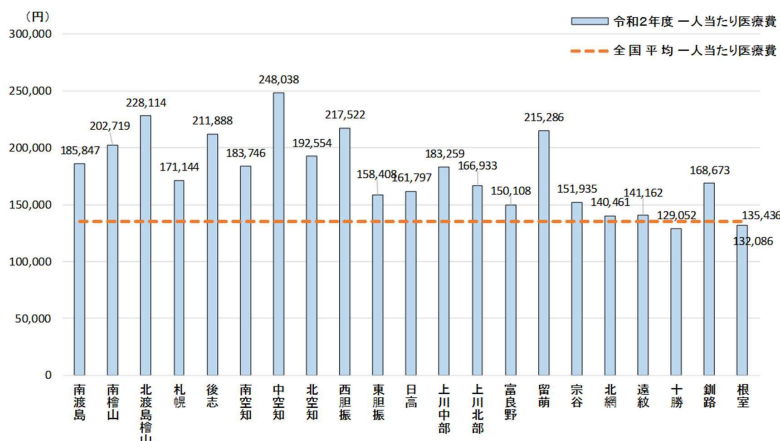
出典:厚生労働省「医療費の地域差分析」

図7 二次医療圏域別一人当たり医療費 (H29 合計)



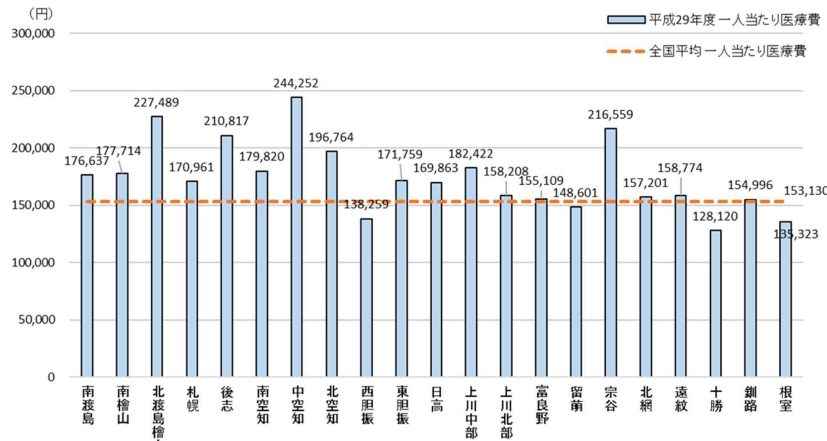
出典:厚生労働省「医療費の地域差指数」

図8 二次医療圏域別一人当たり医療費 (R2 入院)



出典:厚生労働省「医療費の地域差分析」

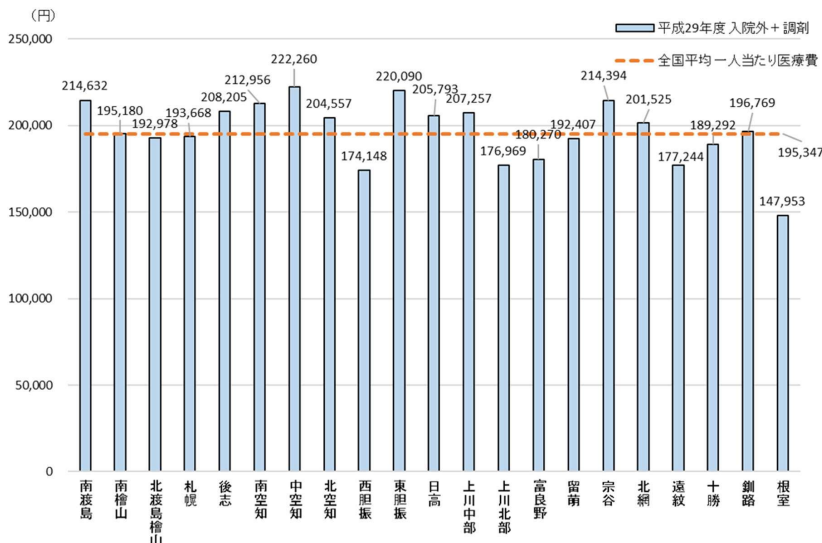
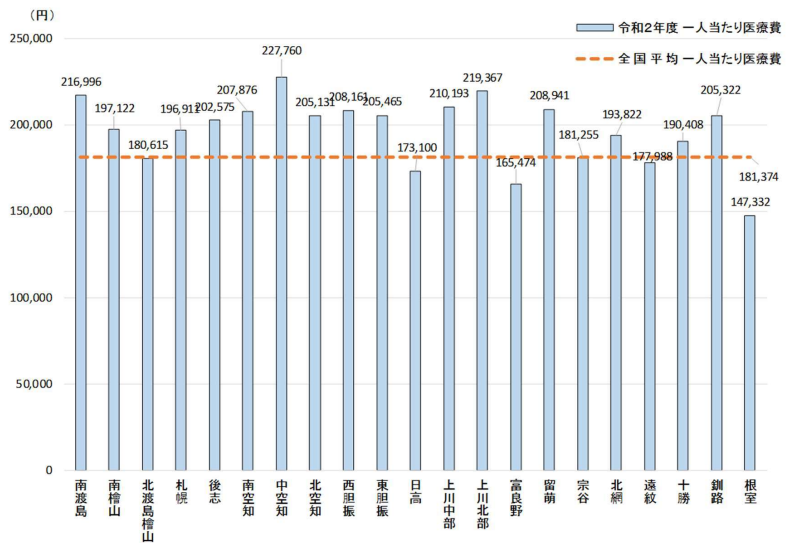
図8 二次医療圏域別一人当たり医療費 (H29 入院)



出典:厚生労働省「医療費の地域差指数」

図9 二次医療圏域別一人当たり医療費 (R2 入院外)

図9 二次医療圏域別一人当たり医療費 (H29 入院外)

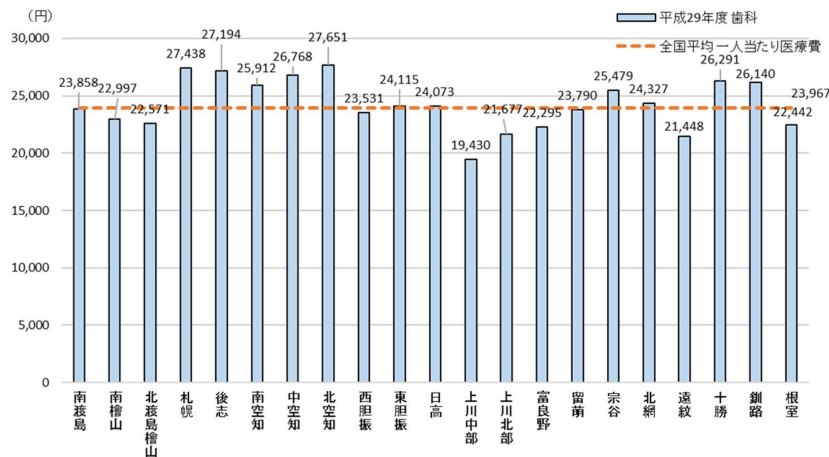
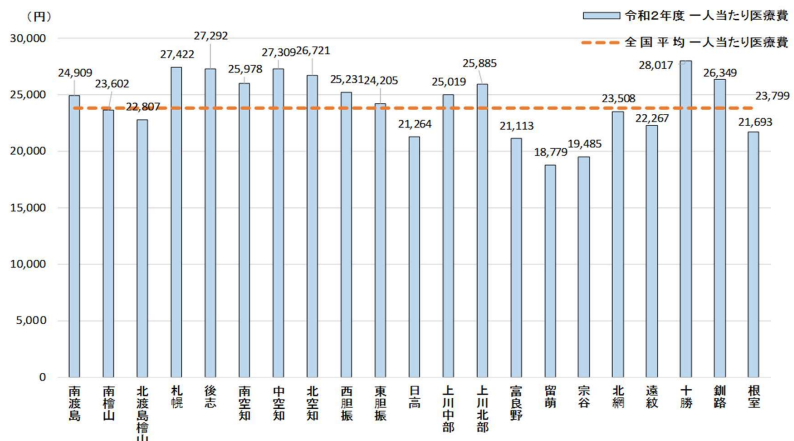


出典:厚生労働省「医療費の地域差分析」

出典:厚生労働省「医療費の地域差指数」

図10 二次医療圏域別一人当たり医療費 (R2 歯科)

図10 二次医療圏域別一人当たり医療費 (H29 歯科)



出典:厚生労働省「医療費の地域差分析」

出典:厚生労働省「医療費の地域差指数」

表9 年齢階級別、推計新規入院発生率の推移（単位：100人当たり件数）

区分	北海道				全国			
	H29	H30	R1	R2	H29	H30	R1	R2
年齢計	14.5	14.6	14.6	13.4	11.8	11.9	12.0	11.4
0～4歳	24.4	24.1	23.7	16.6	16.5	16.3	16.2	12.3
5～9歳	5.0	5.1	4.7	2.8	3.7	3.6	3.7	2.7
10～14歳	3.3	3.3	3.2	2.6	2.6	2.6	2.7	2.3
15～19歳	4.2	4.2	4.1	3.9	3.2	3.2	3.2	3.0
20～24歳	6.0	5.7	5.3	5.4	4.2	4.2	4.1	4.0
25～29歳	7.2	7.0	6.9	6.3	5.3	5.3	5.2	5.1
30～34歳	7.6	7.4	7.2	6.8	6.1	6.0	6.0	5.8
35～39歳	7.0	7.0	7.3	6.5	6.0	6.0	6.0	5.8
40～44歳	7.5	7.4	7.4	6.8	5.9	6.0	6.0	5.8
45～49歳	8.5	8.6	8.8	8.0	6.7	6.7	6.8	6.7
50～54歳	10.4	10.6	10.7	9.9	8.4	8.4	8.4	8.3
55～59歳	12.8	13.0	13.2	12.4	10.4	10.5	10.6	10.4
60～64歳	15.2	15.5	15.5	14.3	12.3	12.4	12.5	12.0
65～69歳	17.1	17.1	16.9	15.4	15.0	15.0	14.9	14.0
70～74歳	23.5	23.2	22.7	20.3	20.4	20.1	19.7	18.4

出典：厚生労働省「医療費の地域差分析」

(3) 二次医療圏別多発疾病の状況

北海道国保連合会が作成した「疾病分類（122分類）別多発疾病上位20傑の推移（件数構成割合）」により、令和2年5月診療分の状況を二次医療圏域ごとに見ると、「高血圧性疾患」が1位を占めており、ほとんどの圏域で「歯肉炎・歯周疾患」、「糖尿病」や「糖質異常症」がそれらに続いています。

表9 年齢階級別、推計新規入院発生率の推移（単位：100人当たり件数）

区分	北海道				全国			
	H23	H24	H25	H26	H23	H24	H25	H26
年齢計	13.0	13.0	13.4	13.5	10.6	10.8	10.9	11.1
0～4歳	25.6	24.4	24.7	24.9	16.2	16.2	16.3	16.5
5～9歳	5.0	4.8	4.8	4.6	3.6	3.6	3.4	3.4
10～14歳	3.1	3.1	3.3	3.0	2.5	2.4	2.4	2.5
15～19歳	3.5	4.0	3.9	3.9	3.1	3.2	3.2	3.2
20～24歳	5.9	5.8	5.7	5.8	4.4	4.4	4.4	4.3
25～29歳	7.2	7.1	7.4	6.9	5.4	5.5	5.5	5.4
30～34歳	7.0	7.2	7.3	7.3	5.9	6.0	5.9	6.0
35～39歳	6.8	6.7	6.7	6.8	5.5	5.7	5.8	5.8
40～44歳	6.9	6.9	6.9	6.8	5.4	5.5	5.5	5.6
45～49歳	7.7	7.8	8.0	7.9	6.3	6.4	6.3	6.4
50～54歳	9.5	9.5	9.6	9.6	7.7	7.9	7.9	8.0
55～59歳	11.0	11.4	11.7	11.6	9.2	9.5	9.5	9.6
60～64歳	14.4	14.3	14.3	14.1	11.7	12.0	11.8	11.8
65～69歳	16.8	16.3	16.6	16.9	14.7	14.7	14.6	14.6
70～74歳	23.5	23.2	23.7	23.1	20.3	20.2	20.2	20.2

出典：厚生労働省「医療費の地域差分析」

(3) 二次医療圏別多発疾病の状況

北海道国保連合会が作成した「疾病分類（122分類）別多発疾病上位20傑の推移（件数構成割合）」により、平成30年5月診療分の状況を二次医療圏域ごとに見ると、「高血圧性疾患」が1位、「歯肉炎・歯周疾患」が2位を占めており、ほとんどの圏域で「糖尿病」や「糖質異常症」がそれらに続いています。

○時点修正